



議長抱負 榎 隆司

高山市議会第93代議長に就任し、身の引き締まる思いです。本市議会には活動規範となる「高山市議会基本条例」があり、民主的で持続可能なまちづくりへの決意が刻まれています。日本一広い市域を持つ本市の多様な声を市政に活かすため、条例が目指す「議論する議会」の姿こそが必要であると確信しています。議長職は名誉職ではなく、この理念をカタチにする「責任職」です。

市長と議会が「二元代表制」の両輪として、緊張感を保ちつつ切磋琢磨する場を守り抜きます。基本条例が掲げる「よりよい政策の実現」を目指し、次の3つの取り組みに邁進します。

1つ目は「議員間討議の活性化」です。24名の議員が地域性などを発揮して議論を戦わせ、行政からの提案をより良いものへと高めていけるよう、議会の機能を最大限に引き出します。

2つ目は「議員定数と報酬の議論」です。あり方について全議員でしっかりと議論を交わす機会を設けます。

3つ目は「政治倫理の最適化」です。政治倫理調査委員会が出された課題や評価を踏まえ協議を進めます。

このほか、人口減少や高齢化、伝統文化や農業の継承など、様々な課題について全議員で調査研究を進めてまいります。市民の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



副議長抱負 石原正裕

歴史と伝統ある高山市議会の副議長という大任を仰せつかり、身の引き締まる思いです。皆様に深く感謝申し上げます。

議会が行政のチェック機能に留まらず、地域の未来を共に設計する「共創のエンジン」となれるよう、私は議長をしっかりと支え、皆様と共に次の4つの柱を軸に、信頼される議会づくりに邁進いたします。

一、停滞させない議会の構築

会派を超えた建設的な議論を重んじ、丁寧な論点整理と合意形成に努めます。ベテランから新人まで誰もが委縮せず、互いに学び合い相談しやすい環境を整え、議会全体の力を底上げします。

二、健全で建設的な緊張関係

中立公正を基本に、対立ではなく論点で首長と向き合います。必要な時には厳しくチェックし、時には共に前へ進むバランスを保ちます。

三、市民に開かれ、頼れる議会

多様化する市民の皆様の声を真摯に聞き、議会審議へ丁寧に反映します。事業者や地域外の多様な主体とも連携し、分かりやすく身近な議会を目指します。

四、議員の知見を集結する環境づくり

議員一人ひとりの豊かな知見や経験を共有・連携し、成果に繋げる関係性を築きます。